

7/30(土)まで！倫理考が、暑中お見舞い申し上げます。7月のテーマ「易・不易の倫理」
ホビ〜貴識に関する内容は、心も揺れ無くて、貴識に行動を促すと

結果良し！ 喜ば運ぶアホ-鳥

2022.7.30~8.5

今週の

倫理

7月のテーマ | 易不易の倫理

1292号

私たちの身の回りにあるものを観察してみると、「変化するもの」と「変化しないもの」があることに気づきます。

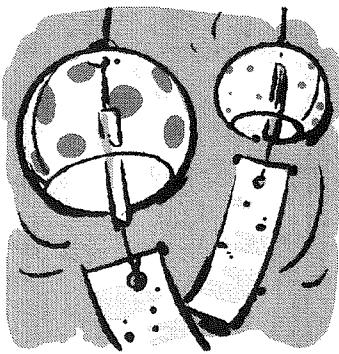
例えば変化するものには、「生物の成長・老衰」「季節」「政治・経済」「生活環境」「技術・文明」などが挙げられます。

これらが変化をしなくなった時、生命や文化、文明は終わりを迎えてしまうでしょう。政治や経済が停滞すれば、景気は悪化し、国力はたちまち失われてしまいます。変わりゆくものとは、言い換えれば、変わらなければならぬものでもあるのです。

次に、変化しないものの例としては、「親・祖先」「血液型」「事業の創業精神」などがあるでしょう。

こうした不変のものもまた、変化してしまつてはその存在が根底から崩されかねない、変えてはならないものだといえるのです。例えば、祖先を否定することは、即ち自己否定につながってしまいます。創業精神もまた、否定したり曲解したりしては、事業の存在意義そのものが揺らいでしまい、社員や取引先からの信用を失うことにもなりかねません。

ここまで挙げたもの以外にも、私たちは様々な「変わるべきもの」(易)と「変わらないべきもの」(不易)に囲まれて生きています。時には、変えるべきか変えざるべきかという選択が、自社や人生の行く先を大きく左右することにもなるのです。そうした大決断を行なう際に重要となるのが、平素からの易不易への関心と研究です。



一貫の実践によって 柔軟な対応力を磨いていく

変えるものは変え、変えてはならないものは断固として変えないという、「易不易の原理」に根差した生活基準を体得することが、自社の事業の信念につながることを倫理運動の創始者・丸山敏雄は次のように説明しています。

事業の経営は、創業精神の一貫不動と、営業経理の自在奔放。(中略)

動かざること泰山のごとく、その理想、その主張・信念は不拔不撓であるが、その行動生活は円転滑脱、自在無碍、変わるべきは毎日かえ(ヒゲをそり、フロに入り、カラーを変える)、不用の信念・知識・雑念は日々これを捨てにすてて、日進日新の心境に遊ぶ。

変わるのが、我が。変わらぬのが、我が。変わつて変わつて、はげしく変わるほど、純なる我が磨き上げられる。

(『純粹倫理原論』丸山敏雄著)

易不易の原理の日常実践を例に挙げると、「一貫」の実践があります。目が覚めたらすぐに起きる、一日十分間の読書をする、習い事の練習を欠かさない、一日の終わりに身の回りの後始末をするなど、目的を定めたら、必ずコツコツと続けることです。

こうした実践を続けていくと、心が自然のリズムとびったり合わさっていくことが実感できるはず。そして、生活が規則正しくなり、決断力も高まっていきます。経営者としての不拔の信念と柔軟な対応力は、「一貫の実践」によって、磨き上げられていくと心したいものです。